

会話の育て方

2020. 12. 20 札幌定例会

藤坂龍司

「自然な会話」は私たちの ABA セラピーの一つの最終目標とも言えるだろう。それを目指すための、中級後半から上級にかけての主な課題を解説する。

1. 情報交換型会話

3, 4 歳程度の子どもの会話は、「ぼく、こないだパパと山登りしたんだよ」「ぼくは、こないだパパと海に行ったよ」などと、相手に張り合うように、対応する自分の側の情報を伝える形のものが多い。このタイプの会話は比較的取りかかりやすいので、まずここから始めよう。

< 「これは〇〇」 >

子どもに例えばバナナを持たせ、大人はりんごを持つ。大人が「これはりんご」という。それに対して、子どもに「これはバナナ」と言わせる。まずここから始めよう。物はどんどん変える。

< 「ぼくはバナナ持ってる」 >

「これは〇〇」が上手になったら、「ママはりんご持ってる」「ぼくはバナナ持ってる」と、言い方を変えてみる。

< 「りんごは赤」 >

物の名前が言えるようになったら、持っている物の色や形など、その物に関する情報を交換し合う練習をする。まず色から始める。

「これはりんご」「これはバナナ」のあと、「りんごは赤」、「バナナは黄色」これをいろんな物で。色が言えるようになったら、徐々に分類名、形、好き嫌いなどへ発展させる。

「これはりんご」「これはピーマン」「りんごは赤」「ピーマンは緑」「りんごは果物」「ピーマンは野菜」「ママはりんご好き」「ぼくはピーマン嫌い」

< 語尾をつける >

上手になったら、語尾もつけて自然な形に。

「これはりんごだよ。りんごは赤いよ」「これはバナナだよ。バナナは黄色だよ」

< 自分に関する情報交換 >

物ではなく、自分自身に関する情報交換に発展させる。

「パパは水色の服着てる」「ぼくは黄色い服着てる」「パパは長ズボンはいてる」「ぼくは半ズボンはいてる」「パパは大人」「ぼくは子ども」「パパはケーキが好き」「ぼくはチョコが好き」

< 経験に関する情報交換 >

はじめはそれぞれ何かを食べて、その直後に食べたものを言い合うことから。「パパはりんご食べた」「ぼくはバナナ食べた」徐々にその日の体験などに発展させるとよい。

「パパはきょう、会社でお仕事をしたよ」「ぼくはきょう、幼稚園に行ったよ」

「パパはお昼にお弁当を食べたよ。おいしかった」「ぼくはお昼に給食を食べたよ。おいしかった」

2. 適切な質問を返す

次は相手の話に対して、適切な質問を返すスキルを教えよう。

<「いい物持ってんだ」>

最初は「いいもの」とか「いいところ」のような、わかりやすいキーワードを使って、それがあればこの質問を言う、と教えておくとよい。

「いい物持ってんだ」→「何持ってるの?」 「いいところ行ったんだ」→「どこ行ったの?」

<直接的強化子>

子どもの質問がダイレクトに強化子に結びつくように工夫すると、モチベーションを確保しやすい。これを「直接的強化子」(機能的強化子)という。

「ママ、いい物持ってんだ」「何持ってるの?」「おっとっと。たべる?」「うん」

最後に強化子に行きつくようにして、会話を2ターン、3ターンと伸ばしていける。

「ママ、いいところ行ったんだ」「どこ行ったの?」「スーパー。それでいい物買ったんだよ」「何買ったの?」「プリン。食べる?」「うん」

<より自然なキーワードへ>

「いいもの」「いいところ」の代わりに、「お買い物」、「スーパー」、「図書館」などの、より自然なキーワードに移行していく。

「ママ、お買い物行って来たよ」「何買ったの?」「お野菜とねえ、牛乳とねえ、プリン。プリン食べる?」「うん」

「パパ、図書館に行ってきたよ」「何借りたの?」「〇〇ちゃんの好きなトーマスの絵本借りてきたよ」「やったー」

<直接的強化子を間引く→自然な興味へ>

この会話に直接的強化子を組み込むやり方は、当初、質問へのモチベーションを高めるにはよいが、いつまでも続けるわけにはいかない。徐々に強化子にたどり着かない会話を混ぜていき、直接的強化子を間引く必要がある。最終的には、子どもに相手の体験などへの興味が沸いてこなければ、なかなか自然な会話にはならないだろう。

「パパなあ、こないだ、大変なことがあってん」「なにがあったん?」「道を歩いててなあ。うっかりうんちを踏んじゃったねん」「えー!それでどうしたん?」「仕方ないからな、うんちがついたまま、かえてきてん」「うわー、きたない!」

3. 相づちと感想コメント

相手の話に、「ふーん」「へえ」と相づちを打ったり、「すごい」「かわいそう」と感想を言うことを教える。文字が読める場合は、言うべきセリフをカードに書いて、それをヒントに言わせるとよい。

へ
え

ふ
ー
ん

す
ご
い

か
わ
い
そ
う

「パパは運動会のかけっこで、一等賞だったんだよ」「すごい」

「ママはきのう、お買い物の帰りにこけちゃった」「かわいそう」

「あしたはママとパパの結婚記念日なのよ」「へえ」（どう返していいかわからない場合は、とりあえず「へえ」とか「ふーん」といった、あいまいな相づちで返すように教える）

<感想プラス1>

感想を言うことが上手になったら、それにさらに一言、付け加えさせる。

「パパは、泳ぐのが上手なんだよ。」「へえ、すごい（ぼくも泳ぎたいな）」「ぼくも泳ぎたいな」

「ママ、さっき、おでこをぶつけちゃった。ほら、赤くなってる」「かわいそう」（どうしたらいい？）

「お薬塗ってあげる」「ありがとう」

<感想プラス2>

一言付け加えることができたなら、それに対する相手の返答に、また一言、返す練習をする。

「パパ、お昼に親子丼を食べたんだよ」「いいなあ（ぼくもたべたいなあ）」「ぼくもたべたいなあ」「今度、一緒に食べようか」「うん、食べよう」

4. 反論とその理由

(1) 相手の主張に対して反論することを教える。

わざと間違ったことを言って、反論させる。

「世界で一番大きい動物は、ぞうさんだよねえ」「ちがうよ。クジラだよ」「ぞうさんだよ」「クジラだよ」「そうか。クジラだよね」

(2) 理由を言うことを教える

「おばけは歩けるよねえ」「歩けないよ」「なんで？」「だって、おばけは足がないもん」

5. 「ねー」ことば

3, 4才の健常児は、「あのねー、ぼくねー、きのうねー、おねしょしちゃった」のように、語尾に「ねー」（関西なら「なー」、関東は「さー」？）をつけて話すことによって、間合いを持たせ、考えながらことばをつないでいくことが多い。その練習をしてみよう。

情報交換を使う。

大人が「あのねー、先生はねー、りんごがすきなんだ」「あのねー、〇〇ちゃんはねー、バナナが好きなんだ」

いろんな話題を取り上げる。

「あのねー、パパはねー、会社でねー、お仕事したんだよ」「あのねー、ぼくはねー、幼稚園でねー、体操したよ」

6. 会話の自発

子どもの方から自発的に会話を始めてほしい。そのための手がかりとして、上記の「あのねー」が使える。子どもに「あのねー、でお話しして」という。

「あのねー、〇〇ちゃんねー、バナナがすきなんだ」「そうなんだあ」

「あのねー、でお話しして」で話題が広がらなければ、こちらが話題を指定してみる。

「あのねー、で幼稚園のお話しして」

「あのねー、幼稚園でねー、はるとくんがねえ、たけしくんとけんかしたんだ」「それでどうなったの？」「たけしくんが泣いてねえ、先生がはるとくんを怒ったの」「そうなの」

「あのねー、で動物のお話しして」

「あのねー、世界で一番足が速い動物はねー、チーターなんだよ。」「そうなんだ」「それでね、一番大きな動物は何か、知ってる？」「知らない。教えて」「クジラでしたあ」「ほんとー？」

子どもが興味を持っていることを話題にすると、いろいろしゃべってくれるだろう。

7. 話しかけ

場面ごとの話しかけのスキルを教える。

①お友達が一人で遊んでいて、一緒に遊びたいとき、

「何してんの？」

②数人が遊んでいて、その仲間に入りたいたいとき、

「入っていい？」

③お友達が一人で図鑑を見ている。

「それ、知ってる」

④遊びを始めたいとき、

「〇〇する人」

⑤お友達が泣いている

「どうしたの？」

⑥お友達が一人で大変そう。

「手伝おうか」